

Glexa Ver.G04.A2102 アップデートマニュアル

第1版(2021年7月)

CHIeru Version2

目次

1.	はし	うめに	2
2.	アッ	ップデートフロー	3
2	2.1.	Glexa のバージョンによるアップデートフロー	3
3.	シフ	マテムを停止	4
3	8.1.	Glexa の運用停止確認	4
3	8.2.	Apache の停止	4
4.	Gle	exa Ver.G04.A2102 のインストール	4
4	.1.	Glexa Ver.G04.A2102 ソースコードの配置	4
4	.2.	OSの再設定	5
4	.3.	Glexa 設定ファイルの準備	6
4	.4.	設定ファイルの確認	6
5.	Gle	xa コンテンツデータの移行	7
6.	Gle	xa データベースの更新	B
6	5.1.	Glexa データベースの更新	8
7.			
	Ар	ache 設定ファイルの修正、起動	9
7	Ар а 7.1.	a che 設定ファイルの修正、起動	9 Э
7 8.	Ара '.1. // У	a che 設定ファイルの修正、起動	9 9 9
7 8. 8	Ара 7.1. Лу 8.1.	a che 設定ファイルの修正、起動	9 9 9 9
7 8. 8 9.	Apa 7.1. バッ 3.1. Gle	ache 設定ファイルの修正、起動	9 9 9 9 9
7 8. 8 9. 9	Ap: 7.1. パッ 3.1. Gle 9.1.	ache 設定ファイルの修正、起動	9 9 9 9 9 9 9

1. はじめに

- 本手順では、現在利用中の Glexa(A1903 or A2004)から「Glexa Ver.G04.A2102」へアップグレード するための設定方法について説明します。
- 「Glexa 3.1 以前」および「Glexa 3.1 or 3.2」からアップグレードを行う場合は別途ご相談ください。
- Glexa を別サーバへ移行後にアップグレードされる場合は、別紙のインストールマニュアルをご確認の 上、別サーバ構築後に、Glexa のアップグレードを実行してください。
- アップグレード前のデータのバックアップについてはお使いの環境に応じて行っていただくようお願い いたします。
- アップグレードの際は最低 2GB の空き容量が必要となりますが、バックアップ等により変動いたします。
- 本書記載のコマンド類は下記 OS での操作を想定し記載しております。
 - CentOS7
 - Red Hat Enterprise Linux 7 or 8
 - Oracle Linux 8
- Glexa に関連しない OS・ミドルウェアに関する設定や、ユーザごとに異なる個別設定は記載しておりません。
- 他のシステムと共存する場合などの動作保証は致しかねます。
- 本書では物理サーバ環境での構築を想定しております。クラウド・仮想環境においては、ネットワーク等の設定が異なる可能性があります。
- 稼働環境よっては必要なミドルウェアを導入しない場合は性能が発揮されず、想定した同時アクセス数を
 処理できない可能性がありますのでご注意ください。
- ウイルス対策ソフトウェア等を導入した場合、ソフトウェアによってはシステムの性能が低下する可能性があります。サーバサイジングには余裕を持った構成とすることをお勧めいたします。
- 32 ビット OS での動作はサポート対象外となります。
- ブラウザの仕様により録音問題を使用する場合は、SSL 証明書が必要となりますので、事前に準備をお願いいたします。
- 本書記載の情報は作成日現在の情報であり、今後変更される場合があります。

2. アップデートフロー

2.1. Glexa のバージョンによるアップデートフロー

Glexa は基本的に現在下記のバージョンが存在しております。

- ・Glexa 3.1 以前 CentOS6 PHP5 MySQL5
- Glexa 3.1 or 3.2
 CentOS6 or CentOS7 PHP5 MySQL5
- · Glexa A1903 or A2004 CentOS7 PHP5 MySQL5
- Glexa G04.A2102 CentOS7 or CentOS8 REHL7 or RHEL8 OracleLinux8 PHP7
 MariaDB10

Glexa G04.A2102 にアップデートする場合は、Glexa A1903 or A2004 にアップデート後、次項以降の 手順を実施するようにしてください。

※既存の OS をそのまま使用する場合は「手順 3.システムを停止」から手順を進めてください。
※OS を新しくインストールしてアップデートする場合は「手順 5.Glexa コンテンツデータの移行」から手順を進めてください。



3. システムを停止

3.1. Glexa の運用停止確認

Glexa の運用が完全に停止されていることをご確認ください。 アップグレード前に全てのユーザをログアウトさせてください。 アップグレード中に利用があった場合のデータ保証は致しかねます。

3.2. Apache の停止

Glexa へのアクセスを完全に遮断するために、Apache を停止します。

systemctl stop httpd

4. Glexa Ver.G04.A2102 のインストール

4.1. Glexa Ver.G04.A2102 ソースコードの配置

4.1.1. コンテンツサーバ(glexa-nfs)側の設定

旧 glexa ソースを別名ヘリネームします。

mv /var/www/glexa /var/www/glexa-old

4.1.2. 入手した Glexa ソースコードをインストールディレクトリへ配置

(例)

cp -a [glexa ソースコードが保存されたディレクトリ] /var/www/glexapro

※注意※ glexapro 以下にある隠しファイルのコピー忘れにご注意ください。

cd /var/www/glexapro

git branch

- →「* master」 であることを確認します。
- # git checkout release/A2102_php7
- → 「Switched to a new branch ' release/A2102_php7'」と表示されることを確認します。
- # chown -R glexauser. /var/www/glexapro

4.2. OS の再設定

4.2.1. パッケージの再インストール

DB をバックアップします。

mysqldump -p -u "DBUSER" -h "DB サーバ IP or FQDN"--single-transaction --skip-lock-tables "DB 名" > /home/"ユーザ" /glexapro_db.sql

※ダブルクォーテーションで囲われている部分は各環境に合わせてください。

古い PHP と DB をアンインストールします。

yum remove php

yum remove mysql

新しい PHP と DB をインストールします。

vi /etc/yum.repos.d/MariaDB.repo

下記のように記述します。

MariaDB 10.5 CentOS repository list - created 2020-07-16 09:01 UTC
http://downloads.mariadb.org/mariadb/repositories/
[mariadb]
name = MariaDB
baseurl = http://yum.mariadb.org/10.5/centos7-amd64
gpgkey=https://yum.mariadb.org/RPM-GPG-KEY-MariaDB
gpgcheck=1

yum -y update

yum -y install http://rpms.famillecollet.com/enterprise/remi-release-7.rpm

yum install -y --enablerepo=remi,remi-php74,epel php php-cli

yum install -y --enablerepo=remi,remi-php74,epel php-intl php-ldap php-soap php-xml phpxmlrpc php-mbstring php-mysqlnd php-gd php-common php-apcu

yum install -y --enablerepo=remi-php74,epel phpMyAdmin

yum install -y mariadb mariadb-server

※PHP と DB の再設定についてはインストールマニュアル(2.9、2.11、2.12)を参照して再構築してください。

※その他必要なパッケージについてはインストールマニュアル(2.5、2.6、2.7、2.8)を参照してください。

4.3. Glexa 設定ファイルの準備

4.3.1. htaccess

cp -a /var/www/glexapro/.htaccess-dist /var/www/glexapro/.htaccess

vi /var/www/glexapro/.htaccess

※サブディレクトリで運用している場合にはコメントアウトせずに /glexapro/ 部分を実際の名称とあわせること。

※サブディレクトリで運用する場合は、以下の行のコメントアウトを解除して「/glexa/」部分を実際の名称と

あわせます。

(例)

RewriteBase /glexapro/

4.3.2. ini ファイル

先ほどバックアップした旧 Glexa から設定ファイルをコピーします。

cp /var/www/glexa-old/etc/glexa-plugin-ini.php /var/www/glexapro/webapp/etc/

4.4. 設定ファイルの確認

インストールマニュアルの「手順3.3 設定ファイル編集」を参照して設定ファイルを修正してください。

CHIeru Version2

5. Glexa コンテンツデータの移行

materials(ユーザごとの教材等データ)、scorm(SCORM パッケージデータ)、packages(パッケージ教材データ)ディレクトリを旧環境から移動します。

(例:既存 OS を使用する場合)

mv /var/www/glexa-old/materials /var/www/glexapro/webapp/

mv /var/www/glexa-old/www/scorm /var/wwwpro/glexa/

mv /var/www/glexa-old/www/packages /var/www/glexapro/webapp/

(例:新 OS を使用する場合)

scp -rp "既存サーバの IP": /var/www/glexa/webapp/materials /data/glexadata/

scp -rp "既存サーバの IP": /var/www/glexa/webapp/scorm /data/glexadata/

scp -rp "既存サーバの IP": /var/www/glexa/webapp/packages /data/glexadata/

6. Glexa データベースの更新

6.1. Glexa データベースの更新

事前に取得してあるバックアップデータをインポートします。

mysql -u "DBUSER" -h "DB サーバ IP or FQDN" -p -D glexapro_db < /home/"ユーザ" /glexapro_db.sql

※ダブルクォーテーションで囲われている部分は各環境に合わせてください。

※新 OS を使用する場合でバックアップを取得していない場合は既存のサーバでバックアップを取得後実行してください。

データベースを現行のバージョンに対応するよう更新します。

php -f /var/www/glexa/webapp/bin/db/database_migrate.php exec=1 2>&1 | tee [ログ保存先 PATH]/dbconv.log

※注

上記コマンド実行時は、必ず実行時の標準ログ / 標準エラーログは取得してください。 (不具合が発生した場合、これらのログが無いと弊社では調査ができません)

7. Apache 設定ファイルの修正、起動

7.1. Apacheの起動

停止していた Apache を起動します。

systemctl start httpd

8. バックアップスクリプトの修正

8.1. スクリプト修正

バックアップスクリプト等で、コンテンツを保存している場合、フォルダ構成の変更に伴い、PATH が変わる 場合がございます。環境により、適宜変更をお願いします。

9. Glexa のシステム設定の確認

9.1. システム設定の確認

管理者ユーザで Glexa ヘログインし「システム設定」ヘアクセスします。

「システム設定」の項目について旧環境から引き継ぐべき必要な項目が適切に設定されていることを確認しま す。変更がない場合も必ず「保存」をクリックします。

「システム設定」の各項目の詳細は「使い方」リンクから「管理者用ガイド」を参照してください。

10. 最後に

本マニュアルに従って設定し Glexa が動作している場合でも、必ずサーバを再起動し、Glexa が正常に動作す るかを確認してください。再起動後に Glexa が正常に動作しない場合は、Apache・MariaDB 等の自動起動設 定が適切に設定されているかを確認してください。